

投票しよう!!

県民提案予算



第44回全国豊かな海づくり大会
応援マスコット とこまる

投票期間 令和7年7月2日（水）から同年8月11日（月）まで

投票資格 三重県内にお住いの満15歳（高校1年生に相当する年齢）以上の方
※ただし、三重県職員、三重県議会議員、法人及び暴力団関係者は投票できません。

投票回数 お一人あたり1回
※1回の投票で、3つのアイデアまで選ぶことができます。



三重の明るい未来を
みんなで決めよう!!

「県民提案予算」とは

県民の皆さんから公募したアイデアを選定のうへ、今回行う投票の結果をふまえ、来年度の予算に反映させる取り組みです。

公募（4/24～6/1）
による
115件
のアイデア

担当部局による
アイデアの選定
14件

アイデア
に対する
投票



事業
構築

意見
募集

予算
編成

詳細は県HPをご覧ください

<https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0007900197.htm>

投票はこちらから（投票フォームのリンク）

【電子メールでの投票の場合】

①お名前、②ご住所・年齢、③お選びいただいたアイデア番号（3つのアイデアまでお選びください）以上を記載のうえ、下記送付先までメールを送信してください。

《送付先》

メールアドレス：zaisei@pref.mie.lg.jp（三重県 総務部財政課 予算班 宛て）

【お問い合わせ】

三重県 総務部財政課 予算班

TEL:059-224-2216、FAX:059-224-2125、メールアドレス：zaisei@pref.mie.lg.jp

※応募の際に入力いただいた個人情報は、個人情報の保護に関する法律に基づいて適切に取り扱い、本事業に関連するご連絡及びご案内にのみ使用し、その他の目的・用途で使用することはありません。

NO	アイデア名	現状の課題	アイデアの概要
1	三重県誕生150周年記念事業	令和8年4月18日、三重県は誕生から150年を迎えます。この佳節を刻むタイミングに、これまでの歴史を振り返るとともに、未来に向けた県民の一体感を醸成していくため、多くの県民の方々に参画頂ける取組を進めていく必要があります。	三重県誕生150周年を迎えるにあたり、本県の歴史や魅力、素晴らしさを改めて実感することのできるイベントを開催するとともに、県民の皆さんの未来へのメッセージや三重県の素晴らしさを表現する作文・写真等を募るコンクールを開催します。
2	ラッピングカーを用いた動物愛護普及啓発事業	三重県では動物愛護推進センター「あすまいる」を拠点とし、平成30年度からクラウドファンディングを行い、TNR事業を進めています。TNRの要望は未だ多く、TNR事業を推進するためには、「あすまいる」を拠点とした県の取組について、県民に広く周知し、理解いただくことが必要です。	啓発車を新たに導入し、取り外し可能な車両のマグネットシートで様々なラッピングを施すことにより、TNR事業を始めとする「あすまいる」を拠点とした動物愛護活動の広報事業を行います。 ※TNR事業とは飼い主のいない猫を捕獲し、不妊・去勢手術をして元の地域に戻し、一代限りの命を見守る地域での活動（TNR活動）を支援する事業のことです。
3	みえ日本語プロジェクト“みんなの居場所づくり”推進事業	家庭や仕事の都合で日本語を学ぶ時間を確保できないなど、学びたい外国人住民にとって日本語を学習できる機会が十分ではないことから、日本ならではの生活ルールや職場でのマナーが十分に伝わらず、意図しないトラブルが発生しています。	デジタル技術の活用により、外国人住民の様々な学習ニーズに応え、日本語学習のための多様な場や機会作りを進めます。また、外国人住民に対し、日本語学習の重要性を普及啓発するとともに、日本人住民に対しても多文化共生の理解を促進し、学習支援者の担い手の確保・育成を図ります。
4	“三重県”の歴史再発見！～歴史的に重要な公文書からみる三重県の歩み～	県では令和5年度に三重県文化振興条例を制定しました。21世紀に入り、三重県誕生150周年を迎え、社会情勢が大きく変化するなかで、これまで培われた三重の文化の土壌を未来へと継承し、地域における文化の力を高めることが求められています。	三重県誕生150周年に際して、県の指定文化財となっている明治期の三重県行政文書の展示を、それに関連した博物館の実物資料の展示とコラボレーションする形で行い、県民の皆さんに我が県の歴史を知ってもらうことで、地域の誇りや一体感を醸成します。
5	みんなで守る！こども性暴力根絶プロジェクト	性暴力は、被害者の心身や尊厳を著しく害する重大な人権侵害であり、決して許されないものです。特に、子どもに対する性暴力は、未来ある子どもの尊厳を奪うだけでなく、その心身の健全な発達に多大な影響を及ぼすことから、社会全体で子どもを性被害から守り、性被害が発生した場合には、これを見逃すことなく早期に発見し、支援することが必要です。	子どもに対する性暴力の早期発見・早期対応に必要な知識や技術が記載されたハンドブックを学校や保育園などで活用いただき、性暴力の早期発見と支援につなげ、また、子どもの性暴力被害を予防するとともに、被害を受けた場合、早期に回復に向けた支援を受けられるよう、性暴力予防と「みえ性暴力被害者支援センター よりこ」の周知をはじめとした啓発事業を行います。
6	若者世代にささる地産地消推進事業	県の調査では、若い世代（18～39歳）の県産農林水産物を選ぶ割合は他の世代に比べ低いことがわかっています。三重県の農林水産業の維持・発展、県産農林水産物の消費拡大のためには次世代を担う若者世代の理解と関心を高めることが必要です。	若者世代への地産地消を推進するため、学生などによる地域の生産物を生かしたメニューの開発、SNSを活用した“推し活”など、若者ならではのアイデアを取り入れて県産農林水産物の活用を図るための事業を行います。
7	外国人観光客の誘客につなげる県産農林水産物の魅力発信事業	日本食に期待をして、日本を訪れるインバウンドは増加していますが、本県においてはインバウンドの需要を取り込めていない状況にあります。急成長するインバウンド需要を取り込み、農林水産業の活性化につなげるため、「みえの食」の力を最大活用して外国人観光客を誘客する必要があります。	食に関心の高い外国人観光客を誘客するため、食文化体験プログラムの開発や、外国人インフルエンサーの活用など、外国人に対する効果的な「みえの食」の魅力発信事業を行います。
8	三重の伝統工芸・食の魅力発信事業	本県の伝統工芸や伝統的酒造り、食品加工による産品は、豊かな自然環境や文化に育まれ、本県にとって貴重な財産と言えるのですが、従事している事業者は小規模であることが多く、需要の減少や後継者不足により事業の継続が困難になっており、認知度向上、新たな販路開拓が必要です。	三重の伝統工芸・食について、その魅力を効果的にPRするイベントを県内外の集客力のある施設で開催し、認知度向上や新たな販路開拓を行います。
9	建設体験フェス in 三重	災害対応など重要な役割を担う建設業は就業者の減少など、労働者不足が懸念され、担い手の確保に一層注力する必要があります。	建設業の魅力を子どもや若者に伝えるため、「ミニショベルカーの運転」「ドローンによる測量」「コンクリート、木などを使った工作」など、体験型のイベントを実施します。
10	未来の警察官育成事業	小学生の「将来なりたい職業」では「警察官」が毎年上位に選ばれるにもかかわらず、三重県警察官の採用試験の受験者数は、減少傾向にあり、将来の治安維持における問題となっています。	子どもたちに警察官を志す気持ちを持ち続けてもらうため、小中学生を対象にした警察官の職業体験に係る事業を行います。警察音楽隊のコンサートを行うなど、子どもたちの思い出に残る機会とします。
11	特殊詐欺等の被害防止を図るための啓発事業	三重県内における特殊詐欺の被害件数は5月末現在で209件であり、被害額は約6億2,110万円にも上る状況です。また、昨年から急増しているSNS型投資・ロマンス詐欺の被害も5月末現在で121件であり、被害額は約12億3,380万円と深刻な状況にあります（いずれも暫定値）。	特殊詐欺等の現状や対策を周知し、被害防止を図るため、三重県内の様々な場所（電車・バスの広告、コンビニレジ前のサインージュ、街頭の大型ビジョン等）における啓発環境を拡充する事業を行います。
12	中学生・高校生の自転車事故防止を図るためSNS等を活用した広報啓発事業	三重県内では、高校生を含む子どもの交通事故死傷者数のうち約半数が自転車乗用中の事故であり、その9割が中学生・高校生であるため、主に中学生・高校生に対する自転車乗用時の交通事故防止対策が求められる状況となっています。	中学生・高校生の自転車事故防止に関する動画をSNS等を活用して視聴してもらうための事業を行います。
13	不登校の傾向にある児童生徒の保護者を支援するプロジェクト	不登校児童生徒が急増しているなかで、児童生徒だけではなく、保護者の支援も急務となっており、保護者が気兼ねなく相談できる環境を整えていかなければいけません。	保護者が相談窓口等の情報を得られるプラットフォームを活用し、その一部として気兼ねなく相談できるAIチャットを導入するモデル事業を行います。
14	三重を知ろう～地産地消プロジェクト～	子どもたちは学校教育で地産地消について学ぶ機会がありますが、実際の意味や価値について「体験」を通して理解する機会は多くありません。	子どもたちが地場産物の生産者との交流・体験活動を行いながら食材を集め、調べ学習を行った上で、栄養教諭と共に献立を考えます。その献立を活用した給食を食べ、生産から消費までを深く知る事業を行います。